町田の丘学園ＰＴＡ座談会でのご意見

〔日　時〕２０２４年2月８日（木）１１：００～１２：００
〔場　所〕町田の丘学園　　〔出席者〕ＰＴＡ役員１１名

◆障がい者青年学級の周知について

・上の子が卒業生なので知っている。下の子だけでは知らなかったかもしれない。青年学級のお知らせが卒業式間際だった。卒業間際は、いろんなことをやらなくてはいけないのでパニック状態で忙しい。１８歳に到達すると手続きが多い。お知らせする時期は入学の時にするといい。
・障がい者のサービスガイドブックはよく見ている人が少ない。小さい頃はよく見るが、利用が安定してくると新しいものをもらいに行かない。
・お知らせする時期、入学式の時は書類が多いのでスルーされがち。高１・高２・高３と書類が少ない時に出さないと流されてしまう。
・個人的には小１でもらってもいい。幼少期の頃は特に情報が何もないから将来が不安。将来、青年学級などこういうものがあると思えるだけで気持ち的に和らぐ。大人になる前でも気軽に来てもいいよという日があるといい。
・障がい児スポーツ教室は、広報に載っていて、１８歳まで入って大人まで続けられる。小学校では、放課後デイサービスに参加が偏る。放課後デイサービスは１８歳を過ぎると入れないため、中学部で慌てる。放課後デイサービスが無くなるタイミングでお知らせが必要。
・中学部に上がるときに一定数地域から入ってきて、高校入学するときにまた一定数入ってくる。障がいの重さや手帳の等級が違うので、求めているものがどんどん広くなっていく。高３だけではなく、広く周知してもらうと、こんなのもあるんだと引っかかる人もいると思う。

◆障がい者青年学級への参加について

・青年学級は空きがないと聞いている。
・青年学級を１から作り上げてきた方々を辞めさせて、新しい方も入れますと言われても、すごく入りづらい。１から作り上げてきた人の後にちょっとずつ入ってくる人たちは抽選でもいい。１から作り上げてきた人たちの優先枠は確保してほしい。
・何年も参加している方は習慣化されており、その曜日に行くと決まっている。それが無くなったりすると精神が崩れたりするのはあってはいけない。
・１年に１回の抽選だと、わが子の障がい特性的では１年で慣れるのはなかなか難しい。親としては、将来的に親が動けなくなった時に子どもの活動場所があった方が助かる。集団で活動ができる場は、子どもたちには継続した参加ができるといい。何年か継続して参加できたとしても新しい人が入って相性とかもあり、なかなかしんどいなと想像だが感じる。
・継続している方の優先枠はあった方がいい。優先枠がなく、その方が落ちて、うちの子が入ったら、障がい者のネットワークは狭いので、親としては気まずい。
・新人ばっかりで、先輩がいないと困る。先輩に教えてもらって体験も必要。先輩に引っ張ってもらって活動できる。
・町田市の YouTube で、どういう活動をしているかアップしては。普段こういう活動があることを知らないから意見も少ないし興味もない。知ってもらうのが一番大きい改善になる。たくさん知ってもらってたくさん意見が出れば予算がついて学級が増えるかもしれない。たくさんの町田の障がい者

ではない保護者に知ってもらえれば、ボランティアをやろうという人も増えるかもしれない。
・動画はわかりやすい。紙は見ない。
・何かの連絡がほしいから、町田市の LINE や YouTube メールにみんな登録している。そういうところに一言二言あれば名前だけでも記憶に残る。みんなが興味を持ってくれれば、普通の人も一緒にやりたいと出てくるかもしれない。
・高校生ぐらいになるとみんな携帯を持っているので、本人たちもみんな見ている。
・子どもに見せて、行きたいと言うようになるといい。視覚的に見えた方が本人もわかりやすいし、安心する。紙ではわからない。親発信ではなく、子ども発信もあり得る。
・動画はわかりやすい。ここに行くんだよと言えば本人も気持ち的に安心する。
・先に見通しがたたないと行こうと言っても行かない。初めての場所を嫌がる子がいる。年齢が上がるとそれなりにこだわりが強くなる。画像とか動画でやっている内容も分かれば、スムーズになる。
・学びと言われると障がいの度合いによってちょっと違うのかなと思ってしまうが、体験や ZOOM などで見学ができると、もしかしたら楽しめるのかもと思える。半日体験とかあるとうれしい。
・受け入れ枠がなくても、活動自体を周知してもらえるといい。その中で体験や経験をさせてもらえるスポットがあるといい。少しずつ門戸を広げてもらうことで、今継続している方にも刺激になるかもしれない。
・今継続している人も新しい人が入った方が刺激になっていいのではないか。
・市でやっている事業なので、今いる方も大事にしてほしいが、市内に住む他の障がいのある方にも等しく機会が提供されるべきものだと思う。ほんとに、小さい枠でも新たに体験できる枠があると、それによって認知度も上がって、新しくいけることになったよと、親の間で話が広がったりすると、入りやすい。
・今ある学級の方たちにも受け入れ姿勢をとってもらえると、新しい人も入りやすい。

◆ボランティアの募集について
・ボランティアを募集するなら、例えば野津田高校とか桜美林大学とか福祉の学科があるところに頼む。見てくれる人がいないと怖い。教育学部や福祉関係の大学生たちがやっていて、その人たちにチラシとか動画を上げれば、協力してもらったりアイディアを出してもらったりもできる。研究と合致させれば卒業の論文にできる。

◆スポット事業について
・ゲーム大会はどうか。この学校にはｅスポーツ部がある。町田工業高校にもｅスポーツ部があるからそういう所と対戦するのはどうか。今の子どもたちは、みんな小さい時からデバイスに触れて慣れている。肢体不自由でも家からオンラインで参加できる。直接教室に行けなくても参加できる。
・オンラインでやってもいい。配信とか、子どもたちの方が進んでいると思う。若ければ若いほどみんなそういうことができる。
・みんな通信でゲームをして慣れている。今の子どもたちは、離れている学校の子たちと通信できるのが当たり前だから、会わなくてもできることがある。
・見学もオンラインがあると、最初は行きづらくてもオンラインだったらできる。
・オンライン見学だけでもいいかもしれない。
・一緒に運動したりするのもいい。画面を見ながら、オンライン体操教室。
・運動しないと太ってしまう。障がい者だから甘やかして、優しくしてしまう。動ける子どもはいろんな所に行ける。若い子には動いてもらいたい。糖尿病の子も結構いる。親が動けなくなるので、動けるうちに習慣にしたい。

・生涯学習センターではリタイヤされた大人の方が、里山を歩いたり、歴史散策をしているが、このような形を障がい者に当てはめてはどうか。スタンプラリーのように、各スポットに行くとスタンプをもらえて、一周する散歩みたいな企画はどうか。なぞときをして簡単なパズルを合わせるとか。なぞとき自体は簡単だけれどもそのスポットに行ってクリアすると次のスポットのお知らせがもらえて、その次のスポットに行ってと、たくさん歩くことができる。
・やりがいがないと。達成してクリアすると嬉しい。やりがいをプラスしていただいた方が意欲になる。
・目的もなく歩くのはすごく嫌がるし、歩かない。ゲーム感覚にするといい。
・マンホールカードみたいに、芹ヶ谷公園のポケモンのマンホールを探しに行くとか、かわせみのマンホールを探しに行こうとか、カードの場所を探せとか、そういうことは好き。
・スタンプとか紙とかこだわるといい。最終的にビンゴになって当たるとか。クリア要素や目的要素がないと楽しくない。
・散歩するだけで体力を使うし、季節も感じられる。生涯学習センターの散歩のノウハウがある。よくリタイアされた方がリュックサックを背負ってみんなで歩いている。史跡をめぐったり博物館に行ったりすごく良い。あれをみんなでやったら楽しい。
・チームにしてみんなでクリアする。班長とか決めて２～３人のグループになってみんなで手をつなぐとか、助け合うとかしてクリアする。もともといた人たちと新人が入って助け合うとかチームづくりもできる。新人の人もさりげなく入りやすい。スタッフも働いていてやりがいがあった方かいい。
・参加のハードルを低くしてほしい。
・スポットの会に期待したい。絵画や音楽、お料理等馴染みのある活動ならチャレンジしてみたい。
・高等部だとお仕事したくて、調理など、おうちでもやっている方もいるし、参加のハードルが低くなる。そういうことを通して、今の青年学級を知ってもらって、融合したり、いい刺激がお互いにあると新しい青年学級になるのかなと思う。今日はコラボですとか、少しずつ機会があるといい。

◆親の参加について
・小中学校では、親の学習ボランティアもあり、保護者から募集している。授業のお手伝いをしたことがある。例えば家庭科のミシンとか、先生一人で３０数人を教えるのは難しい。技術的な図工とか家庭科とか音楽とかの時にボランティアに行ってみんなで手伝ったりする。田植えなど手伝いに行ったりすることもあるので、親が参加することは問題ない。親自身も実際どういうことをしているのか１回は見たい。遠くからどんなふうに楽しんでいるのか見たい。毎回、強制ではなく、たまに行けるときに親御さんのご協力どうですかとか。
・小学校の時に学校ボランティアに行った。その時にどうやって過ごしているのか子どもを見たい。それはここでも同じことと思う。
・たぶん募集すれば見てみたいと思う親は来るのでは。それが毎回となると難しいが、たまにがいい、親の年齢とかもあるし、仕事もしたい。
・そういう人は中にはいる。人それぞれ。
・高校を卒業した上の子の話しだが、小中高校までは親にべったりだった。だから親も一緒に見学したり、学校に行きたい親だった。子どもが卒業後、親と離れたいと思うようになり、土日も一緒だと息がつまるようで、今はもう朝は早く出ていく。急に変わる。
・その方に合わせた親の支援の仕方がある。募集もマストでなくてお手伝いが出来る方という募集をすると、隠れて見る親もいるかもしれない。お手伝い意識をしていただいて、余白を作っていただくとお互いにいい。
・お母さんが来た時に子どもが嫌だという方もいる。小さい頃はお母さん来て、と言っていたのに。一度居ると、次はなぜ居ないんだ、と言われる。色々なパターンがある。